学校・保育所のあり方地域説明会と町政懇談会

意見・質疑応答の概要

日　時	令和６年８月６日（火） 18:30～20：16		会　場	湯本公民館	
参加者	13 名	町出席者	町長、副町長、教育長、学務課長、 祐征主査、里子主任、企画財政課長、 刈田代理		

〇学校・保育所のあり方地域説明会

番号	質疑・意見	応　答
1	（川尻１区　男性） 教育長が話していた西和賀の学びの大事な５つの視点のスライドはすごく良い考え方だなと思っていて、それを実践していくことがすごく大事じゃないかと思っています。 小中学校の統廃合の話しが出てきてますけど、人口減少で仕方がないことだと思いながら、ネガティブな事だけではないと思っていて、こういう機会に住民一人ひとりがどういう教育が良いか、どういう子育てが良いか考えることも大事だと思うので、結構ポジティブに捉えておりますが、一つ抜け落ちている視点があると思っている。自分の良さに気づいて世界で羽ばたくみたいな項目があったと思うんですけども、自分の良さに気づくって、同じところにいるだけではなかなか気づきにくいと思っている。これは私からの提案というか一つの自分の経験からの意見でもあるんですけども、この地域はお盆とか帰省してくる方、親	（教育長） 海外と結びつく方法がないかとエリオット（国際理解推進員）さんと話すこともある。日付け変更線とか時差があるので、やるとしたらオーストラリアかなと話す事もある。いずれ西和賀にいてもいろんな方々と交流できる機会は絶対増やさなきゃならないと思ってる。中学生の意見で、姉妹都市のようなところと一緒に何か出来たら良いなという話もありました。そこまでいかないにしても、例えば修学旅行とか、何かいろんな形で他の学校等と日常的にいろいろと交流を図りながら、実際に会ってみるとか、自分たちの思いを伝えてみるとか、非常に大きな力になると思います。そういう機会をいかに作っていくかというのは課題だと思っています。 西和賀高校に埼玉から来た子供がいますが、その子は島根の隠岐島前高校と西和賀高校を比較したようです。こっちを選んだポイントは、何かあった時に新幹線１本

	戚とかいたりする。やはりお盆は人が多く動くので気持ちがそわそわしてくる感覚がある。そういう感覚が結構大事だと思ってる。 　普段には無い異質な出会いや交流は大事だと思っていて、小学校高学年くらいから思春期くらいの１年ないし２年、若しくは半年でも、都会のどこかの町と交換留学みたいなことができれば、そこで初めて自分の町の良さとか、自分の何が良いのか気づくと思う。どこの市町村とタッグを組むかとか、世界単位で見たら面白いんじゃないかと思っているが、なかなかハードルが高いと思うが大事な考え方だと個人的には思っています。	で来れるというのが最大のメリットだったということ。
２	（川尻１区　男性） 　この先を見越して西和賀は山村留学を受け入れるという土壌を整備して、新幹線１本で来れるという話もすごく良い話。そこをもっともっとＰＲしていくと来たい人たちもいると思う。	（教育長） 　８月の末に県外募集に入っていきますので、どんなＰＲの仕方があればここで学びたいという人を引き付けることができるのか、いろいろチャレンジと言うか研究していきたいと思う。
３	（湯田　男性） 　15 年くらい前に小学校の統合に関わった者ですけれども、あれから 15 年も経った､15 年しか経っていない、どっちの感覚かと思っています。これから 15 年後を考えたときに、また新たな問題点が出てきて、そのときあり方を検討する考えがあるのか。今の話を聞いてると通学時間の問題があるために、これ以上の統合はないんじゃないかなと自分では受け止めておりますけれども、そういう認識でよろしいんでしょうか。	（教育長） 　この広い西和賀町で、人口も子どもも減っていくというのが避けられない状況の中で、歯止めをかけながら、又はチャンスがあればこちらに住んでくれる方を求めながら、そして良い教育を地元の子も外から来た子も教授できるような形で精一杯努力していくのが基本だと思っています。 　危機に陥った時に、町全体が学校だけではなくていろんなものの課題が噴出するように思います。 　教育の面で、今この時期にやれ

		ることを精一杯やりたいと思っている。地域に学校がなくなると地域が滅んでしまうというか、本当に無くなってしまう恐れがあるので、それは阻止して、皆さんの協力でなんとか知恵を絞りながら進めていきたいと思っている。
4	（湯田　男性） 保育園、保育所のことで、今は二つの運営体がある。これから私立の保育園は統合して町も健全運営に配慮して継続して連携を図っていくとありますけれども、経営母体を一つにしたら簡単なんじゃないかなと素人感覚で思うんですが、私立の保育園の経営者さんたちはどのような考えでいらっしゃるのか。	（学務課長） 公立私立の部分につきましては、西和賀町が合併してからの課題であったところです。これまでも愛児会さんと町とで話し合いをしてきているところですけれども、この課題をクリアしてから保育所のあり方検討を進めるとなると、更に時間を要してしまうため、公立私立のところにつきましては、町と愛児会さんで引き続き検討して参りますけれども、今は児童数の減少とか施設の老朽化の部分を踏まえて、まず統合させていただくような形の部分で、さらに保育サービスを充実させるという進め方をまずさせていただきたいと考えているところです。
5	（川尻１区　女性） 年少人口の現状と将来見通しが、去年と今年しか実数がなくその前が分からずなんとも言えないが、親目線で想像すると、一度小学校に入れば、よほど子どもが嫌だと言わない限りは、転勤とかどうしてもしょうがない理由がない限り、そのまま小学校、中学校に通わせ続けるんでしょうけれども、なんとなく保育園から小学校に上がるタイミングで、子ども本位にどういう教育を与えようかとか、どういう環境で育てようかという考	（教育長） 情報の発信が課題だということを思っていまして、例えばこういう会が終わったら「昨日はこうっだった」というような気楽な情報の交流があれば広がっていくと思っている。 今回６回目の説明会を通して、やはり工夫して情報発信していかなければいけないと内部で話している。例えば今日のジョイントスクールの中で、熊沢校長が「是非小学校の先生が保育所に行って学ばなきゃいけない」と言ってくださ

	えで外に出ていく人がいるのかなと想像しました。 　ですので先程お話しのような素晴らしいビジョンをもっと公に、他に入れるより西和賀の小学校、中学校に入れたいと思うような情報提供というか見通しを持てると、社会減が少しでも減るんじゃないかなと思う。この話を是非あちこちで広めていただきたいと思います。	った。そういう一つ一つがすごく大きな情報になると思っている。保育所と小学校がこんなに近いというようなところは確かな学びに繋がっていくし、情熱のある先生たちもいるし、地域の方もいるんだということのＰＲにもなっていく。なんとかお知恵をいただきながら情報発信していきたいと思っています。
6	（川尻１区　男性） 　情報発信は専任で置いた方が良いのではないでしょうか。すごく大事な事だと思うので専任で置くべきだと思います。そうじゃないと届かないし、役場の中もすごく忙しいと思うので、結構急いでやった方が良いのではないかと思います。	（副町長） 　ご意見として承ります。
7	（湯田　男性） 　小中学校一貫となったら校歌はまた作るのでしょうか。	（教育長） 　今私達が目指したいのは、小学校と中学校はそれぞれちゃんとあるという状況で維持していきたいなと思ってますので、校歌は引き続き残します。

○町政懇談会

番号	質疑・意見	応　答
1	（湯田　男性） 　仕事柄、いろんなところに行っていろんな山林を見ておりますけれども、荒れ放題と言ったら大変なものでございまして、そういう荒れ放題が西和賀の景観を悪くしている部分も何ヶ所かあるように見受けられます。 　西和賀町の唯一の財産と言っていい程の財産が木材でございま	（町長） 　恐らくここ何年かは今までよりも材が出ている、木が切られている様子を結構目にされているのではないかと思います。そういう点では動いていると思いますが、町としてどういう方向で、しっかり山の管理を含めてやっているのかという部分が今ご指摘のとおり、まだまだな部分があると思いま

	す。もう 10 何年も前から財産である木材を何とかしようという話があったんですけれども、なかなか表面に出ない。いつになったら具体的な話になるのかと首を長くして待っております。町長さんが立候補された時に様々なビジョンをお持ちの方だとお見受けしましたけれども、これからどのようにしてこの財産を町民のものにしていくかっていうことを、もうちょっと緻密に計画を立てていただきたいなと思います。	す。 今、森林税と言われる税金が始まって、またそれ以前から山に対する交付金が来ておりました。そういうものを利用して、花巻市と共同で、飛行機を飛ばして国有林も含めて山全体の資源調査をしております。加えまして他の市町村と比べてはるかに多い 2,000 町歩程の町有林を持っておりまして、これの利用計画というのが以前から懸案としてやって参りましたけれども、なかなか出したい量と場所と、それからそれを搬出する力とが噛み合わないでいる点があって、それが正にご指摘の通りですので、そこを早急に対策をしていきたいという思いでおります。 一方で、かつて拡大造林と言われた、広葉樹、自然林というか天然林ですけれども、これを切って杉を植えたというのがありまして、民有林、個人が持っている部分の半分近くが売れたようでありました。 元県職で林業改良指導員をやられた方を町で採用してやっておりますけれども、その方と話をしておりますが、「西和賀は他に比べて良い点がある。西日本では人工林を切った後、もう一度植え直さないとなかなか山林にならないという生態であるが、西和賀は広葉樹が天然更新に近いような形で広葉樹化していくことが可能な地域で、これは結構この地域の魅力、潜在能力だ。」というお話を聞いて私もそのように思っていたので、そういう形で相当な部分は広葉樹化

		するということが、地域全体の山の景観形成にも資するんじゃないかと思っております。 　一方で、今まで蓄えてきた針葉樹がありますので、それについてはいろいろ今の状況に合った使い方で考えていかなければならないと取り組んできたところです。その一つ、燃料として使っていく手段があり、バイオマス利用ということで国の事業を導入して計画化しております。外に、単に木を出していくのではなくて、地域内で利用して循環させていくということでのバイオマスということで、利用できる施設の絞り込みをやっております。 　そういうものを取り組みながら、全体の景観であったり、山の維持であったり、ということを示せるようにやっていきたいと思って考えている状況でございます。
2	（耳取　女性） 　沢内は保育所、小学校、中学校が一カ所になる予定で、湯田の方では小学校の方に保育園ができるという形ですけれども、そうなると湯田中学校だけがポツンとの残るようなイメージになってしまったが、将来的には湯田中学校も小学校の方にできるという形なのか。	（教育長） 　気持ちはそのとおりです。 　保護者さんたちも一カ所に集まることで交流も生まれてくる。交流することでまた新たな課題やテーマが出てくるように思います。一か所でできたらと思っていますが、いろいろ皆さんと相談しながら進めさせていただきたいと思っています。
3	（川尻１区　男性） 　国の方では２地域居住を進めているのがあると思うが、２地域居住についての町の考え方を聞きたい。	（企画財政課長） 　２地域居住については、この間の議会で質問があって、その際にお答えしておりますけれども、今は国から考え方が示された段階でして、町としてはまだこれから取り組みにあたって研究していく段

		階にありますので、今後いろいろ情報収集させていただきながら、取り組んでいきたいと思っております。 　先ほどの第一部で情報発信の専門人材を配置するべきだとのご意見をいただいておりましたが、情報発信の担当部署を預かる立場として、非常にそこは及んでいない、至らない部分だと思っており、ご指摘のとおりだと思っております。人が絡む話ですので、今直ちに出来る、出来ないの話しは申し上げられませんが、ご意見として参考にさせていただきたいと思います。
4	（川尻１区　男性） 　２地域居住に関して、個人的に話が来ている。１～２週間滞在したいが交通費とか滞在中の支援があるのかという問い合わせが個人的に来る。 　町では移住体験住宅を整備していますが、沢内と湯田に１軒ずつしかなく、そこが埋まっていると入れなくて、自分の家を貸し出したりとかして、シェアハウスのような感じでやっているが、それだけでは多様なニーズに対応しきれないと思うところ。 　例えば町の温泉施設、住民は定期券を買えるが、よその町から体験で来た人は定期券が買えない。かつてはふるさと町民という制度があったと思う。ああいうのをもう一度見直して、やれるところからやって受け入れをしていますよとか、そういうのを出していくべきじゃないかと思います。	（企画財政課長） 　ありがとうございます。今後ともいろいろご指導、ご指摘いただければと思っております。

	情報発信についても、かわまちづくりとか上野々とか、ほとんど情報が出ていない。ダムだよりとかで知るが、町側からでていなかったりすることがある。その辺も丁寧にやっていかないと、住民と一体になってやっていくという意味では弱いのではないかと思うので、教育についてだけではなくて全体的な部分で強化していただきたい部分です。	
5	（川尻１区　女性） 先ほどの方の山林をもっと資源として活かしたら良いというお話しは、私ももっと西和賀の自然がお金になるんじゃないかと思っている。今は企業が生物多様性を持っている地域と連携することで、そういう地域にお金を払うことで自分の起業のＣＳＲ（企業の社会的責任）を保つということをやっている。その中で西和賀町はレッドデータブックに載っているような動植物がまだあるという話もあるので、そういう調査をちゃんとやって、ここは多様性が高い地域であって、ここを守る価値がとてもあるということを企業などに上手く連携しながら、資源として使うにしても手入れするにしてもやはりお金がかかるので、そういうのを上手く企業から引き出していけたらとても良いと思っています。 聞いた話では、杉林と天然の混合林では、根っこの張りが違うらしく、天然林の方が Co2 の吸収が全然違うらしい。そういうことを強みに上手く変えていけたら良い	（町長） それで十分かどうかはありますが、そのような視点は検討をしている面もあります。 Co2 の問題は今市場で取引されるような形になっております。見えやすいのは Co2 なので、それについてお話をいただいて、机上で研究しましたが、なかなかハードルが高い。目に見えない物質なので第三者にしっかり認定していただかなければならないとか、間伐するとか、間伐するに値する山かどうかを認定していただかなければならないということで、これだけ山があるのである程度できるのかと思いましたが、なかなか簡単でないところもあり、引き続き検討中でございます。 あと森林に直接ではないが、小水力発電が地形的に小河川も多く結構有効ではないかと思っており、今現在、私のところに入っている情報では、民間２社が１年を通じての雨量であったり水量であったりのデータ収集をしております。 東日本大震災以来、電気の価値

	と思います。	というものはグッと上がってきており、これまでも自然エネルギーを使っての検討はされてきたんですがなかなか実現に至らなかったところ、ここにきて今のようなお話し。社会的な注目度と電気が高価になってきている部分で、調査の裏付けができれば、今まで以上に可能性があるのではないかと期待しているところです。 　そういう点での企業の関りと、個別で是非西和賀に応援したいというような企業を探し出すという点でも必要かと思っております。できるだけ情報を収集し、しっかりアンテナを高くしながら、そういうお話があった場合にはしっかり対応していきたいと思っているところです。